超長期住宅先導的モデル事業に向けた環境工学的支援 - 伝統の知恵を現代に生かすパッシブ手法 -

Environmental Technical Support in Leading Model Project Concerning Extraordinarily Long-Range Dwellings - Passive System which utilize wisdom and innovative ideas on Traditional Houses

吉野泰子1

Yasuko Yoshino¹

Abstract: We describe the advanced model house which has been kept with the guidelines for action adopted "National Land and Transportation Ministry Super Long-Range Dwellings" around Yokohama city close to Tama-plaza station. This condominium has built up concerning the environment such as "Green plants on the roof", "Uchimizu (dry mist)", "External sun shade blind", "Night purge" and "Interlocking parking space" and so on. The performance of the multifamily dwellings especially environmental design parts cleared out owing to both physical quantity measurements and questionnaire survey. This building has just adopted "Good Design Award2010". Carrying out the investigation aims to innovative ideas on traditional house has been applied to modern houses.

1.はじめに

第一種低層住居専用地域の南傾斜地 に計画された39 戸の低層マンション (Photo 1) は、日本在来種を中心に緑地 率50%を実現した植栽計画や,パッシ ブ主体の建築計画などが評価され,国



Photo1. Scale model

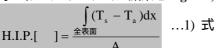
土交通省「平成20年度(第2回)超長期住宅先導的モデル」 に採択され、平成22年3月入居完了、8月中旬居住環境測定と 入居者へのアンケート調査を実施した。

本報では、

温熱環境 の概要を報告する。これらD社との共同研究成果が、同年9月 末、サステイナブルな集合住宅のプロトタイプ的試みが意 欲的であるとして「Good Design Award 2010「1」」を受賞した。 2. Passive 手法による温熱環境改善に関する検討

2-1 解析方法及びシミュレーションと実測結果

横浜市青葉区に建設予定の南西向き L 型共同住宅をモデ ルとする。 敷地面積は 2889.66 m², 建築面積は 1350.00 m², 建蔽率は46.7%である(Fig.1,2), Table 1 に解析条件, Table 2 に検討ケースを示す。検討項目は、 緑化手法・緑化率、 外装材の相違 に着目し、HIP「2」や表面温度により緑化効果 を評価する。当シミュレーション結果を Figure 3,4 に示す。



Ts:表面温度[], Ta: 気温[]

dx: 微小面積 $[m^2]$, A: 街区水平投影面積 $[m^2]$

Table 1. Analysis parameter

気象条件	2008年8月5日
空調条件	28 , 8時~22時
構造	RC造
外装材	庇:アルミ手摺
(ケース1,2,3)	窓:2重ガラス
外装材変更点	庇:熱線反射ガラス
(ケース)	窓:Low-E ガラス
敷地内舗装	保水性舗装
散水条件	時間:7時,保水後一定乾燥

Table2 Parameter of each case study

ケース 0	従前建物(RC 造,砂利)
ケース1	樹木のみ
ケース2	樹木+芝生+保水性舗装
ケース3	樹木+芝生+保水性舗装+屋上緑化



Figure 1 Site plan Figure 2 Elevation

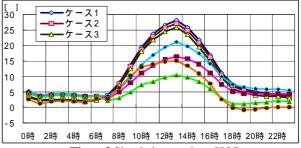


Figure3 Simulation result on H.I.P.

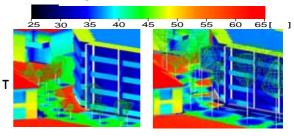
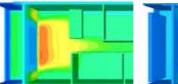


Figure4-1 Planting h=3 m

Figure4-2 Planting h=10m



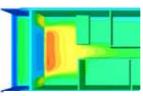
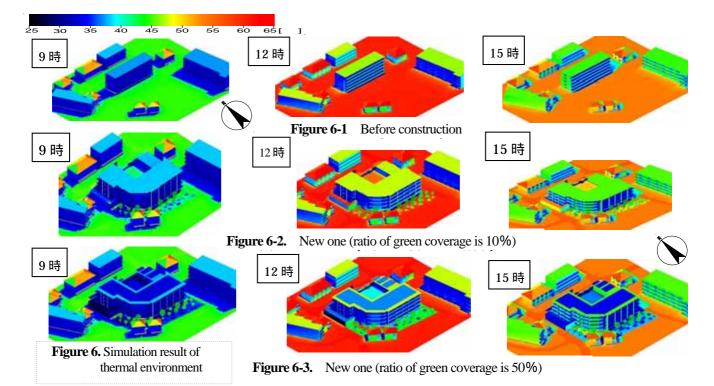


Figure 5-1 Without shading Figure 5-2 Effect of night purge

1:日大短大・教員・建設



平成20年度 国土交通省超長期住宅先導的モデル事業採択マンション

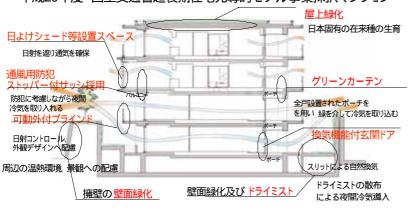


Figure 7. West side section using passive system

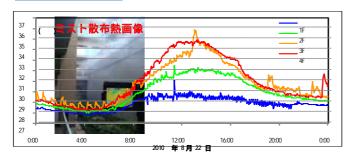
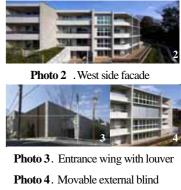


Figure 9. The effect of mist spray from 1st floor to 4th floor

Fig.5-1,2 は、夜間冷気導入の有効性を示している。 建設前 (Fig.6-1)の 3.5 倍のボリュームのマンションなが ら.Fig.6-2.3 の方が cool spot が増大しており.居住者の環境 意識形成に貢献している。Fig.7 は,当マンションに導入し たパッシブ手法の例である。Fig.8は、屋上緑化効果を熱画 像で撮影したもので、シミュレーション同様 15-20 の改 善効果が見うけられる。いずれも、日本古来の伝統の知恵 を現代風にアレンジしたもので、気候風土や生態系、太陽・

水・土など 自然の営 みに目を 凝らした エコミッ クスデザ インとな っている。 中でも,打 ち水をイ メージし たミスト

散布 (Fig.9) は,4階







Roofgarden effect | Photo 5. Hearing

で35 ,45%, 1階で 29 ,75%と,約 5 の低減効果 認められ、冬期は乾燥対策となろう。 Photo 2~4 は、本物件 の竣工時写真で,日射遮蔽ルーバー,可動外付けブラインド など特徴的なしつらえとなっており、当該性能や、居住後評 価(温熱・空気質・光・音環境)に関し,面接誘導設問アンケ ートを実施した(Photo 5) 結果は,別報を参照されたい。 3.まとめ

地球環境を見据えた passive system は,気候風土に基 いた伝統の知恵を現代に生かす、長期に渡り伝承すべき 手法である。今後、これらテクノロジーとの融合を図り つつ, sustainable なライフスタイルを実践すべきであろう。

4.参考文献

- [1] Good Design Award 2010 http://www.g mark.org/
- [2] A&A 環境設計(熱)サーモレンダー3 Pro
- 【謝辞】本調査を遂行するに際しご協力頂いた㈱大京をはじめ、 当該住戸居住者の皆様ほか、関係各位に深謝致します。